

# 10.97.2 の新機能

Ver.10.97.2 の新機能と注意事項について以下にお知らせします。詳細については以下のリンクまたはインストールメディアに掲載している「What's New (英語版)」および、「Release Notes(英語版)」のドキュメントをご参照ください。

What's New: <https://docs.iconics.com/V10.97.2/Release-Docs/ICONICS-Suite-Whats-New-10972.pdf>

Release Notes: <https://docs.iconics.com/V10.97.2/Release-Docs/ICONICS-Suite-Resolved-Issues-10972.pdf>

## 利用可能なアップデート版 (Critical Fixes Rollup)

このバージョンには、[ICONICS Community Portal](#) でダウンロード可能なアップデート版(Critical Fixes Rollup)があります。ICONICS では、最新のアップデート版(Critical Fixes Rollup)をインストールすることを推奨しています。アップデート版(Critical Fixes Rollup)には、製品の安定性を高めるための重要な修正プログラムが含まれています。

## 注意事項

以下の表は、ICONICS Suite を以前のバージョンからこのバージョンにアップグレードする際に、ユーザのワークフローに影響を与える可能性がある変更内容、変更に対する処置について記載しています。詳細については、「What's New(英語版)」および、「Resolved Issues(英語版)」のドキュメントで[Reference ID]を検索してください。

変更内容	必要な処置	Reference ID
以前のバージョンにおいて、Workbench のカタログデータベースにカスタム名を使用していた場合、ver.10.97.2 にアップグレードする際にデータベースが自動的にアップグレードされません。	<p>以前のバージョンから ver.10.97.2 にアップグレードする際に、全てのアクティブなデータベースをアップグレードすることを選択した場合、Workbench のカタログデータベースが"IcoSetup"というデフォルト名以外であると、適切に更新されません。代わりに "IcoSetup "という名前の新しいデータベースが作成され、それがアクティブになります。このため、プロジェクトがリセットされたような印象を与えることがあります。</p> <p>カスタム名の Workbench カatalogデータベースを使用しているユーザは、10.97.2 へのアップグレード時に以下の手順を実行する必要があります：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>10.97.2 のインストールを開始し、「データベース作成オプション」画面が表示されるまで進みます。</li><li>「データベース作成オプション」で[詳細設定]を選択します。</li><li>ローカルシステムの構成ダイアログが表示されるまで、インストールを進めます。</li><li>[次へ]を選択します。</li><li>「プロジェクト設定」で[既存のプロジェクトデータベースを使用する]を選択</li></ol>	91919

し、次にカスタム Workbench カタログデータベースを選択します。

6. [次へ]を選択します。
7. 必要であれば、[すべての構成を自動的にアップグレード(更新)する]を選択します。それ以外の場合は、アップグレードしたいデータベースを選択します。
8. [設定]を選択します。
9. インストールを続行します。

上記の手順を踏まずにすでに 10.97.2 にアップグレードしてしまったユーザは、以下の手順で復旧することができます：

1. スタートメニューで、ICONICS Tools > Configure System を実行します。
2. 「プロジェクト設定」画面に到達するまで、ウィザードを進める。
3. 「プロジェクト設定」で、[既存のプロジェクトデータベースを使用する]を選択し、次にカスタム Workbench カタログデータベースを選択します。
4. [次へ]を選択します。
5. 必要であれば、[すべての構成を自動的にアップグレード(更新)する]を選択します。それ以外の場合は、アップグレードしたいデータベースを選択します。
6. [設定]を選択します。

SQL Server 証明書が自己署名の場合、接続文字列に

「trustservercertificate=true」を指定しないと、接続に失敗するようになりました。

**Critical Fixes Rollup 1 以降をインストールした場合:**

処置を行う必要はありません。Critical Fixes Rollup がインストールされると、接続文字列が自動的に更新されます。

**Critical Fixes Rollup をインストールしていない場合:**

以前のバージョンから構成をアップグレードする場合は、信頼された証明機関からの証明書を使用して SQL Server を構成するか、手動で接続文字列を更新する必要があります。

接続文字列を更新するには、次のいずれかを実行します:

- 接続文字列の末尾に「trustservercertificate=true」を追記します。
- 接続文字列の設定画面を開き、[サーバ証明書を信頼する]を有効にします。

87517, 90969

	<p>構成データベースに使用される接続文字列はアップグレード時に自動的に更新されますが、その他の接続文字列は編集が必要になります。対象となる主な設定項目は以下の通りです。:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AlarmWorX64 Logger ログ用のカスタムデータベース</li> <li>• AlertWorX ログ用のカスタムデータベース</li> <li>• Assets (AssetWorX) キャッシュデータストア</li> <li>• Bridging (BridgeWorX64) ログ用のカスタムデータベース</li> <li>• Connected Field Service (CFSWorX) ログ用のカスタムデータベース</li> <li>• データベース (GridWorX) SQL 接続</li> <li>• Hyper Historian data exporter ストレージ接続の接続タイプ [SQL/Azure SQL]</li> <li>• Reporting (ReportWorX64) ログ用のカスタムデータベース</li> <li>• TrendWorX64 Logger ログ用のカスタムデータベース</li> </ul>	
<p>ver.10.97.2 の初期設定では、WCF 通信は無効になっていました。</p> <p>Critical Fixes Rollup 1 以降をインストールすると、WCF 通信が自動的に有効になります。</p> <p>WCF 通信が無効になっている場合、以下の問題が発生する可能性があります。:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• クライアント (Workbench, GraphWorX64, Web クライアント, MobileHMI アプリを含む) はサーバに接続できません。ライセンスエラー、または、一般的な接続エラーが報告される場合があります。</li> </ul> <p>Hyper Historian は、リモートコレクタから送られてくるデータを記録しません。</p>	<p>Critical Fixes Rollup 1 以降をインストールします。</p> <p>Microsoft によって WCF プロトコルが廃止されているため、必要に応じて、以下の手順で WebSockets に切り替えることができます。:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>[FrameWorX Server Location]</b>を開きます。</li> <li>2. プライマリサーバ、または、セカンダリサーバの<b>[設定]</b>を押下します。</li> <li>3. <b>[WebSockets]</b>を選択し、<b>[OK]</b>を押下します。</li> <li>4. <b>[FrameWorX Server Location]</b>の各タブにて、プライマリサーバとセカンダリサーバに対して同じ手順を繰り返します。</li> </ol>	84515, 91261
<p>IoTWorX edge/gateway デバイスの動作環境が Azure IoT Edge Runtime 1.2 になりました。</p>	<p>IoTWorX edge デバイスに新しいバージョンを適用する手順は、10.97.2 の「Readme」ファイルまたは、「<a href="#">What's New</a> (英語版)」ドキュメントの手順に従います。</p>	88006

<p>[プラットフォームサービス設定]の[制限なしのサーバ]タブが削除されました。マシン名、または、IP アドレスを使用して接続するリモートサーバモジュールを信頼することができなくなりました。</p>	<p>[無制限サーバ]タブにて、リモートサーバモジュールを信頼するためにマシン名、または、IP アドレスを追加していた場合、2つの方法のうちいずれかの方法を行う必要があります。</p> <p>推奨手順:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Critical Fixes Rollup 1 以降がインストールされていることを確認してください。</li> <li>2. FrameWorX Server がドメインユーザとして実行されていることを確認します。</li> <li>3. 信頼するサーバモジュールが FrameWorX Server と同じ ID で実行されていることを確認します。</li> <li>4. FrameWorX マシンで[プラットフォームサービス設定] &gt; [アクセス制限]タブを開き、[サーバモジュールへの無制限のアクセスを許可する]を有効にします。</li> </ol> <p>代替手順:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Critical Fixes Rollup 1 以降がインストールされていることを確認してください。</li> <li>2. [プラットフォームサービス設定]の[パスワード]タブを開きます。</li> <li>3. 信頼するサーバモジュールの適切な資格情報を追加します。</li> </ol>	<p>87138</p>
<p>GenEvent に書き込むには、ユーザにセキュリティ許可が必要になりました。</p>	<p>カスタム GenEvent を投稿する権限をユーザに付与する必要があります。カスタム GenEvent は、以下の方法で生成されるイベントのことです。:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバルコマンドの[イベントの記録]コマンド</li> <li>● スクリプト(FwxClientWrapper クラスの LogSimpleEvent()関数、LogTrackingEvent()関数)</li> </ul> <p>この権限を特定のユーザ、または、グループに付与するには以下の手順を行います。:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Workbench の[Security]を開き、必要に応じて、[ユーザ]、または、[グループ]を展開します。</li> <li>2. 該当のユーザ、または、グループをダブルクリックします。</li> </ol>	<p>87153, 87783</p>

	3. [アプリケーション動作]にて、[共通]を開き、[GenEvent の記録]を有効にします。	
一部の GenEvent のソースフィールドとメッセージフィールドが変更されました。	(表示またはログ上で)GenEvent にフィルタを適用し、[ソース/タグ]、または、[メッセージ]フィールドをフィルタ条件に使用している場合、新しい情報に一致するようにフィルタを更新する必要がある場合があります。  ICONICS では、ロギング側ではなく、表示側のみフィルタを適用することを推奨します。ロガー側で不適切なフィルタを適用すると、データを損失する可能性があり、ログに記録されていないデータは永久に失われます。表示側で不適切なフィルタを適用した場合は、データを損失しません。	87153, 87783
ICONICS OData Connector Point Manager (FwxODataService) サービスは、セキュリティ上の理由から初期設定で無効化されるようになりました。	管理ツール[サービス]で ICONICS OData Connector Point Manager (FwxODataService) サービスを有効にするか、より安全な Web Platform Services (WebAPI) REST API に切り替えることができます。	89251
OPC Direct および OPC Over DCOM チャンネルは、マイクロソフト社の DCOM の脆弱性対応に伴う機能削減により、「廃止」と表示されるようになりました。これらのチャンネルは、[プラットフォームサービス] > [FrameWorX] > [サーバ設定] > [GenBroker64 設定]で設定します。	ICONICS では、リモート OPC Classic サーバに対して、[TCP/IP 上の OPC]を使用することを推奨します。この設定は初期設定であるため、ほとんどのユーザは設定を変更する必要はありません。この変更と Microsoft による DCOM の強化についての詳細は、リンクの <a href="#">ニュース記事</a> をご参照してください。	88836
OPC Configuration Tool は削除されました。	FrameWorX に認証局署名証明書を追加する必要がある場合、リンクの <a href="#">ヘルプトピックス</a> をご参照ください。	90190

## BACnet with SC に関する推奨事項

- **履歴ログ**：一時的な保管場所として、BACnet with SC の Logger オプションを使用します。長期保存を必要とする環境では、Hyper Historian (Standard 以上) の使用を推奨します。将来的には BACnet with SC から Hyper Historian Express へのマージが可能となります。
- **証明書設定**：Workbench のユーザーエクスペリエンス向上は、将来のリリースで計画されています。それまでの間、証明書の生成と署名には以下で対応ください。
  - [Open SSL](#) を使用
  - スタンドアローンツールを使用  
([Josef Tomecek](#) にメールでツール利用をリクエストしてください。)

## 10.97.2 の新機能

- Hyper Alarm Logger
  - データエクスポート機能に対応

- クエリインターフェースを使用した、テーブルとデータセットコントロールに対応
- Hyper Historian
  - Azure Event Hub を経由した、クラウドに存在する Kafka へのデータ出力に対応
  - MergeWorX プラグインを使用した、MELSEC Q 及び iQ-R 高速データロガーユニットからのデータ取り込みに対応
- 三菱電機 FA ツール
  - Asset Builder – MELSOFT GX Works3 プロジェクトから GENESIS64 を自動設定する機能に対応
  - GENESIS64 Converter-GOT – MELSOFT GT Designer3 プロジェクトを GENESIS64 に変換する機能に対応
- セキュアインストールの簡易化
- ドイツ語対応
- HTML5 と MobileHMI の機能改善 - HTML5 と WPF のプラットフォーム間の機能ギャップを解消
- セキュリティの改善 - ICONICS Suite のセキュリティ全般を強化
- IoTWorX のプロキシ対応
- CFSWorX が Microsoft Teams メッセージ機能に対応
- コントロールに関するその他の機能強化
  - データダイアグラム
  - Fault Viewer
  - テーブル
  - TrendWorX64 Viewer
- ReportWorX64 に Energy AnalytiX サンプルレポートを追加
- 値の設定コマンドを使用した localsim やローカル値への書き込みに対応
- ソフトウェアライセンスのリカバリモードに対応